

会議議事録

委員会	2020年度 学校関係者評価委員会
学校名	東洋きもの専門学校
会議名	第3回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和3年 2月22日(月) 18:00~19:30
場所	東洋きもの専門学校 302・303号室
出席者	<p>◇委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小寺 克一 (東洋きもの専門学校校長) <p>◇委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大東 正之 (大阪市立鶴見商業高等学校 校長) ・藤岡 将 (アトリエシルク千林店 ジェネラルマネージャー) ・近藤 規代 (東洋学園高等専修学校 教頭) ・野崎 智子 (東洋きもの専門学校卒業生 作家&プロデューサー) <p><欠席></p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉村 隆介 (株式会社吉村商店 代表取締役社長) <p>事務担当 説明者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤 (東洋きもの専門学校 副校長) <p>司会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中永 (東洋きもの専門学校 教務部長) <p>書記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中 (東洋きもの専門学校 教員) <p>記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中川 (東洋きもの専門学校 教員) ・松本 (東洋きもの専門学校 教員) <p style="text-align: right;">合計 10名出席</p>

議案	<p>協議</p> <p>①学校概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の本校の取り組みについて <p>②令和2年度自己評価結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果について ・今年度の重点目標について <ul style="list-style-type: none"> 教育活動・教育成果・学生支援・教育環境 募集活動と受け入れ <p>③意見交換</p>
----	---

内容

・学校長挨拶

協議

①学校概要について

◇今年度の本校の取り組みについて

「東洋きもの専門学校令和2年度の取り組み実施報告」・・・レジュメに沿って伊藤副校長より説明
緊急事態宣言解除後の6月より授業を再開。春に行うことができなかった行事等を時期をずらして実施することができた。沖縄研修旅行については、細心の注意を払い、保護者にも理解を得て実施できた。「TOYO Collection」についても、観客数の制限等も行い開催することができた。教育機器については、Mac,プリンターを購入した。
他校との合同授業,特別講義の開催を実現させることが出来たが、丹後への研修旅行や就職企業による職業説明とデモンストレーションについては、コロナの為延期になっている。
卒業式については、式を短縮で行い、パーティーは行わない。

※上記についての質問・意見なし

②令和2年度自己評価結果報告

◇アンケート結果について

「在校生アンケート結果」・・・レジュメに沿って伊藤副校長より説明

・2「学校規則について理解している」について

1年生については、コロナの影響により分散登校を余儀なくされ、入学後の「オリエンテーション」等は時間短縮での実施。そのため十分な説明がなされず不安な思いをさせた。

・26「学校におけるコロナ対策授業については適切である。」の項目を増やした。

学生の評価より、学校側の対応・取り組みが評価されたものだ理解しているが、今後においても、状況により対応していきたい。

・[学生の自由記述から]・・・素晴らしいショーを開催し、学習カリキュラムにおいても他校にない内容であるにも関わらず、知名度が低い。SNS等でもっと拡散されればよいと思う。

※上記についての質問・意見なし

◇今年度の重点目標について

・教育活動・教育成果・学生支援・教育環境

[基準4-19]について

現時点での就職内定者は5名・結果待ち5名である。職種については欲をいってられない状況ではあるが、エントリーをして面接や試験を受けても結果をすぐに出してくれない企業が多い。卒業までにもう少しであるが、最後までサポートしていきたい。

[基準4-20]について

本校での検定合格率は、75～85～100%であるが、「きもの文化検定」の合格率が悪い。

毎年、ショーの開催日と重なり、学習量が十分に取れないの原因かと推測されるが、合格率UPの為対策をとっていきたい。

[基準5-25]について

学生の経済面において、コロナ禍における奨学金の緊急対応等、随時説明会を行いサポートした。

[基準6-32]について

Mac、高性能プリンターの購入を行い、設備の充実をはかった。

[基準6-33]について

コロナ禍で、行事予定通りの日程で行うことはできなかったが、時期をずれしたり、分散で行ったり縮小したりして、実施することができた。

・募集活動と受け入れ

学校訪問等を行って募集活動するのが困難になってきた状況の中、SMS等も視野に入れていきたい。

●今後の課題

・コロナの影響が今後どのぐらい続くか不透明な中、オンラインでの対応も行っていきたいと思っているが、技術の指導という面においては対応するのは難しい。

・募集においては、SNSの活用も考えている。

内容

③意見交換

[校長] 技術を教える専門学校では、オンラインで対応するのは難しい。通常授業を行えるよう体制を整えたい。鳥インフルエンザが人にも感染する中、何が起こってもおかしくない。コロナ禍の中、絶対に感染者を出さないという取り組みとして、徹底して皆に伝えている事として、喉が少しでもおかしくなったらうがい手洗いをし、飴をなめる。顔は触らない。目薬をさすなど。どれだけの効果かはわからないが、おかげで、全職員感染することなく現在に至っている。メディアに振り回されることなく、正確な情報を伝えていくという事も大切である。Withコロナという事で、取り組みや対策等ご意見をいただきたい。

[大東] 公立の学校であるため、教育委員会からの指示のもと

- ・昼食時は、一方向を向き、静かに食事をする。食堂に教員を配置し、声掛け見回りをおこなう。
- ・資格取得の授業については、リモートでは設備的に無理、教員がYouTubeで問題等を発信し行った。教員の個人の設備で行っているという事、受け手側も設備が不十分で今後の課題である。
- ・水泳、音楽の合唱の授業等、怖がる学生には、見学をさせた。
- ・それぞれの状況に合わせてできることを考え、実施した。

[伊藤] 「TOYO Collection」においても学生や保護者から様々な意見があったが、検討を重ねて実施した。個人の技術向上だけでなく、先輩後輩との関係性や人間性の形成の為に必要であると捉えている。きもの業界・保護者・関係者等からは、称賛や謝意をいただいた。困難な状況下でも教育の場を提供していくのが教員の使命でもあると思っている。

[大東] 本校でも、同じようなことがあった。
体育祭では、3学年120人が縦割りで行う集団演技を行った。
保護者からは、様々な意見があったが、終わったら生徒からも良かったとの声がかけた。

[藤岡] 検温・消毒の実施し、営業。
美容学生は、資格を取りテクニックはあるがスキルがない。入社時で即戦力とならないものが多い。専門学校からは入社後に教えてもらえると言われているが、学生の為にもしっかりと技術をおしえるべきであると思う。

[伊藤] 着付けにおいても、実践あってこそ技術の習得になる。出張着付けの指導や成人式での着付け等、本校では積極的に行っている。

[近藤] 発熱をした生徒については、微熱であっても早退させた。
昼食時のルールを作った(授業を受ける席の形で食事をし、食後はすぐマスクを装着)
オンラインでの授業は、生徒の顔色がはかれないので、授業を進めていくので難しい。
生徒には、5月まで課題を送りレポートを提出させた。学習進度に差は出たが、6月からの登校では対面での授業の大切さに気づき授業に対して前向きになった。

[野崎] 緊急事態宣言下での接客業務は大変である。平日400人 土日祝1000~人程度来客。
イベント等の開催も中止となり発表の場が少なくなった。その一方で5~6年前から付き合いのある方は、オンラインで昭和の髪型やきもの帯など解説し、雑誌「七緒」でも掲載された。
一般の方でも、ズーム等のオンラインで講座を開く人も出てきており、今後普及するのではないかと知っている。

[藤岡] 昨年度就職した学生について状況はどうなっているか？

[A] 3分の1程度離職した。個人で探し、就職したがイメージと違って辞めた者もいるし、コロナ禍の影響を受けた者もいる。

[藤岡] きもの業界のダメージは？

[A] 外国人向けの観光着物レンタル業は大打撃を受けたが、成人式の振袖レンタル等は影響はない。

[藤岡] インターンシップは行っているか？

[A] 最近企業の方から業務内容を理解してほしいと、職業説明やデモンストレーションを学校まで来て、行ってくれるところもある。秋以降、最近になって求人依頼ついでの話をしにくる企業が増えた。

[校長] きものを広めたいと、伊藤副校長を中心に「きもの文化研究会」を立ち上げた。
学生募集については、SNS等にも力をいれ、今後も他方面に目を向けてPRしていきたい。

